

---

# ごみ箱

結城菜緒

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ごみ箱

### 【コード】

N0747B

### 【作者名】

結城菜緒

### 【あらすじ】

私の家のごみ箱は、私の自慢です。あなたはごみ箱にありがとうを言ったことがありますか？

私は、今日もごみ箱にごみを捨てる

どの家にだってあるはず。その名のものは。

毎日毎日、いやな顔せずにせつせと仕事をするんだ。

温かさだつて備えてる。ごみ箱機能のついていない冷たい機械のなかじゃ、削除したら跡形もなく消えてしまうもの。

本当のごみ箱は、少し違うんだ。気づかずに私が捨ててしまった大切なものを、何も言わずに少しの間大事に持っていてくれる。気づいた私があせって探したすと、何も言わずにスツと差し出してくれる。

誰にもほめてもらえないけど、それが私なのかもって思って今日も働く。誰かにほめてもらうことを望んでいるわけじゃなく、感謝の気持ちはもっていて欲しいなと思ってる、少し変わったあなた。

誰よりも朝早く起きて、みんなが快適に一日をすごせるようにはりきってる。一番疲れているのは、あなただと自分でよく知っているのに。がんばり屋のあなた。

居てくれるのがあたりまえって思われてる。そこに居るものとはかりみんな思っているから、少し移動しただけで投げたごみが散らばってすぐに家の中は汚くなるし、そこにいてくれないと変な感じ

がするんだ。

汚い役を自ら引き受けて毎日を過ごしてる。誰もがいやがる残り物をかたづけするのもあなただし、それをいやがるうともしないであたりまえのようにやっている。きっと本当は、ごみよりも新品のクリームパンのが食べたいって、知ってるんだ。それでもごみを食べ続ける。

汚いごみをぶつけてばかりいた。自分のことしか考えていなかったんだよ。家の誰もが。あなたにばかり矛先が向けられて。つらかったよね。傷つけちゃったよね。

いつだって笑顔を忘れないんだ。大きな口をあけて、みんなを待ってる。どんなものも受けとめる心の強さと広さがあるんだ。

あなたは、その中の鏡だと思う。

本当にそう思う。

今さら、面と向かっては言えないよ。だから、ここに書き記すね。

ありがとう

今までごめんなさい

本当にありがとう

ごみ箱、本当にいらぬものを入れる箱。

でもなんだか、そのがんばりのせいで、少し大切な物までいれたくなる不思議な箱。

私は、今日もごみ箱にごみを入れる。

ありがとうの気持ちを静かに込めて。

あなたが家にいてくれて、私は幸せ者です。

(後書き)

どうだったでしょうか？評価、感想、指摘、なんでも待っています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0747b/>

---

ごみ箱

2011年1月8日22時12分発行